

平成 15 年 4 月 15 日

国際教育会議報告書

SMASSE 物理教育専門家
武村重和

1. 会議名 第 1 回隔年国際教育会議
2. 開催場所 ダブルトリー・ホテル
アメリカ合衆国 カリフォルニア州 サンディエゴ
3. 会議主題 地球共同社会における国際化教育の意義を明らかにする
4. 日時 2003 年 4 月 2 日 ~ 5 日
5. 主催者 アライアント国際大学 AIU
国際教育課程・教育方法学会 WCCI
6. 主旨
 - 1) 世界各国から教育分野で活躍する専門家が集まり、教育の国際化を促進するための第 1 回国際教育会議の開催。
 - 2) 世界で拡大する多文化間交流や文化横断研究、地域社会の統一と多様性、教育のアカデミック文化格差を縮める努力、人権の尊厳を高める教育的努力など、世界に広がる教育の諸問題にタックルするために、世界の教育者にフォーラムを提供する。
7. 目標
 - 1) 教師教育における横断的研究と情報交流
 - 2) 学校教育を改善するためのカリキュラムと教材
 - 3) 国と国際社会がパートナーシップで実現する地球共同社会の教育
 - 4) 地球人間家族の結束を促進する知的、道徳的、科学的な学習のパラダイム
 - 5) 人間の相互交流による知識と経験の国際的共有化
 - 6) 人間精神とテクノロジーの調和による世界平和
8. 参加国
ケニア、ナイジェリア、ニジェール、トルコ、バングラディッシュ、インド、フィリピン、マレーシア、中国、日本、ニュージーランド、オーストラリア、ペルー、キューバ、デンマーク、カナダ、アメリカ(ミシガン、テキサス、シンシナチ、メリーランド、ウイスコンシン、カリフォルニアなど)
なお、イラク戦争中であったため、欠席陳謝の国が多かった。
9. 共催団体について
 - 1) アライアント国際大学 AIU は、元のアメリカ合衆国国際大学 USIU から発展したもので、USIU を含めると 80 年の歴史がある。ケニアのナイロビやメキシコシティにも分校

USIU がある。ナイロビの USIU は学生数およそ 2500 人と聞いた。ナイロビの USIU からサンディエゴの AIU の大学院修士コースや大学院博士コースに学ぶケニア人若者は多い。本世界大会の事務局員として 2 人のケニア人学生が働いていた。この大学は特に、アフリカ、中南米、アジアなどの学生を多く受け入れている。大学教授などのスタッフにもこれらの地域の出身者が多かった。ハーバード大学やスタンフォード大学のようにアメリカのトップリーダーを養成する大学とは異なり、発展途上国で活躍するリーダーの養成を行っているようだ。

- 2) 国際教育課程・教育方法学会 WCCI は、国連の NGO として認可された学会で、世界各国に支部がある。WCCI は、3 年に一度の世界大会を持ち、1974 年に、イギリスのキールで第一回世界大会を開催した。その後、トルコのイスタンブール(1977)、フィリピンのタガイトガイ(1980)、カナダのエドモントン(1983)、日本の広島(1986 年、日本教科教育学会その他の学会と共催、武村重和が大会実行事務局長)、オランダのノルウイケルホルト(1989)、エジプトのカイロ(1992)、インドのアムリトサル(1995)、タイのバンコク(1998)、スペインのマドリード(2001)で開催され、2004 年は、オーストラリアのウオロンゴングで 7 月に開催される。1998 年の世界大会がバンコクで開催されたときは武村重和が第 9 代 WCCI 会長で、チュラロンコン大学と共催した。このときはユネスコ UNESCO より、5 万ドルの支援があって多くの発展途上国の教育者が参加した。このため大会記録誌である 1998 年世界大会記念誌は分厚いものになった。

10. プログラム

英文報告書参照

11. SMASSE プロジェクトの発表

4 月 3 日 午前 9 時 ~ 10 時 30 分

詳しい内容は英文報告書参照

タイトル: SMASSE プロジェクト

主な内容

- 1) SMASSE プロジェクトとは何か
上位目標、プロジェクト目標、成果、活動、投入など
- 2) SMASSE の研修システム作り
カスケード・システム、ボトム・アップとトップ・ダウンの機能
地域研修の自立発展性
- 3) ベースライン調査と実施の必要性・妥当性
- 4) 研修テーマと ASEI/PDSI
- 5) プロジェクトのモニタリング・評価
プロジェクト内部評価実施体制の確立、評価ツールの開発と活用、
フィードバックによるプロジェクトの質的管理と発展、
効率性、有効性、妥当性、インパクト、自立発展性
- 6) 自立発展性 財政、アカデミック、及び、行政
地方、国、JICA の役割と協調
- 7) アフリカ域内理数科教育強化プロジェクト協力体制とネットワーク
活動内容
- 8) 今後の行程
研修の全国制度化
南南協力

12. 全体会議パネリスト

テーマ: 国際教育パネル

4月4日 午後1時 ~ 3時

詳しくは英文報告書参照

- 1) 2002年6月外務省発表の「教育セクター支援に関する日本の努力」
- 2) 「成長イニシアティブに対する基礎教育: BEGIN」
- 3) 「アフリカにおける理数科教育のための人材能力開発」

13. SMASSE プロジェクト「内部モニタリング・評価のための評価問題インスツルメント」の紹介

10部を持参し先進国10ドル、発展途上国5ドルで頒布すると発言したところ直ちに完売した。

14. 各国のインパクト

- 1) 多くのフィリピン人の参加があり、2度にわたって夕食に招かれた。フィリピンの教育者たちはフィリピン大学理数科訓練センターとケニアのSMASSEスタッフの交流を良く知っており、JICAを通して多くのケニア人の来フィリピンを希望した。ASEIの授業を見せてほしいということであった。
- 2) 2004年7月5日より9日まで、オーストラリアのシドニーから1時間ほどのところにあるオーロンゴング WOLLONGONG にて、WCCI世界大会を開催するので是非SMASSEケニア人スタッフに参加して欲しいという申し出を受けた。

以上